

朝倉市

松末復興かわら版

全国稀 合同危険箇所確認完了

2018年1/15・17・19の三日間、松末地域の崩落、2日目は学校下流の落危険箇所の確認作業が4集落、そして最終日は朝倉市復興計画調整官恒吉氏を窓口として実施された。これは12/9の松末コミュニティ主催の学習会で行政に提示されたもので、当初1/11、15に予定されていたが雪のために延期されたものである。初日は松末小より上流の赤谷川両岸4集落、2日目は学校下流の落危険箇所の確認作業が4集落、そして最終日は朝倉市復興計画調整官恒吉氏を窓口として実施された。

参加したのは国交省筑後川河川事務所、林野庁九州森林管理局、福岡県と朝倉市の農林・河川の担当部署。このような行政の枠を超えた活動は全国でも珍しいとのこと。

1日 赤谷川上流域

10時に松末小学校に集合し、真竹↓小河内↓昼食↓本村々方面↓赤谷々方面の順に行われた。

真竹【バス停裏の神山を切り通して直線化した。】

社下の斜面では所管が決まっていない崩落箇所があり、今後検討することとなる。また地元より真竹では乙石川をサイレン山を切り通して直線化した。最終的に措置が計画されていない場所が2箇所あることが分かった。



前半二日間で赤谷川沿い、三日目に乙石川で確認を実施。

てほしいとの話もあると紹介された。終盤、小学校門角で乙石川からの取水口が機能していないことも上げられた。

赤谷【3方面に分かれ、上流組は車で移動して実施した。赤谷川左岸の沢を確認中に、地元からS字カーブを川に沿って直線化して欲しいとの話も出る。その後塔の元の峠の沢と県道を潜る暗渠の確認も行われた。

赤谷【3方面に分かれ、上流組は車で移動して実施した。赤谷川左岸の沢を確認中に、地元からS字カーブを川に沿って直線化して欲しいとの話も出る。その後塔の元の峠の沢と県道を潜る暗渠の確認も行われた。

2日 赤谷川下流域

2日目1/17は雨天を押しして10時から池ノ迫↓正信↓昼食↓瀬ノ口↓立の順番で実施された。

池ノ迫【林道から逸れて竹林を下りてゆくと小さな果樹園が現れ流入した真砂土地で放置されていた。このような畑がいくつもあり、松末の小規模耕作地を維持することの困難さを感じる。池ノ迫の本松酒屋の裏の沢は人長け数倍の深さにえぐられかなりの距離に渡り河床に岩盤が露出しおり、当日の土砂流出の凄まじさが分かる。



案内の住民と地図を確認する国交省と林野庁

宅地を通る際に側溝がクランクしているために溢れて床上浸水した事例や、空家の下に新たな流路が出来たが解体すること出来ず復旧工事の妨げになっている報告もあった。空家問題は他の集落でも同様らしい。

瀬ノ口【県道からか



本松酒屋前を小さな水路が県道を潜っているが、その上流では豪雨の凄まじさが。

3日 乙石川3集落

最終日1/19は晴れ、気温も10度を越えた。10時に集合し中村々方面↓乙石々方面↓昼食↓石詰々方面の順番で実施された。

中村【乙石川の右岸と左岸の2方面に分かれた。左岸では⑨地点の確認から始められた。段々に作られた銀杏畑の間に沿って在った沢が道を削って広がり両岸に露頭が続いている。露頭には礫層が幾重にも見られ、過去にも同様の洪水が繰り返されてきたことを示している。【乙石】最初に①地点を確認する。写真。あまりの範囲の広さに復旧完了後のイメージがわからない。次にバス停奥の沢では、崩落箇所の下流が畑かどうかで管轄が変わる。林野庁「作業道の計画があるのか情報してほしい。乙石」計画があっても直ぐに着工するとは言えない市「年度別事業計画を作ります。このとき全ての了解がそろっていないと進まなくなりませう。林野庁」河川の復旧は5年で進められるが、治山事はその後も続きます。恒吉「などのやりとりが聞かれた。【石詰】⑩地点では段々畑の斜面が尾根部分から沢沿いに広範囲に崩落していたが、河床に花崗岩盤が露出しており、真砂化した部分が岩盤の上す滑落している様子が見える。また石詰では民家裏の沢も多く崩落しており、作業の優先順位は高いと思われる。

3日間行政から住民への説明を聞いていたと以下のような要点となる。

①守るべき対象によって管轄と優先順位が異なる。②優先順位は家屋↓道路↓農地↓山林となる。③治山は山の崩壊を止め、砂防は下流の家屋などを守る役割を担う。④原則山の崩壊は所有者負担となるが、保安林の指定をかけることで国が代行して治山を行い、所有者に返却出来る。⑤そのため国交省には用地買収はあるが、林野庁には買収はない。

立【大規模は崩落は少ない集落だが、規模の大小に関わらず裏山からの出水対策は住民のところで切実なものがある。また現在県道52号線からの架橋がないために、沢からの暗渠工事で道路が通行止めになると進入路に不便を託す覚悟も必要なのようである。

恒吉「などのやりとりが聞かれた。【石詰】⑩地点では段々畑の斜面が尾根部分から沢沿いに広範囲に崩落していたが、河床に花崗岩盤が露出しており、真砂化した部分が岩盤の上す滑落している様子が見える。また石詰では民家裏の沢も多く崩落しており、作業の優先順位は高いと思われる。



乙石奥の今回の豪雨で最大の崩落箇所の一つ。下流に14.5mの砂防堰堤計画がある。



左から林野庁・国交省・福岡県・朝倉市と案内の乙石地区住民。

今後について朝倉市の恒吉調整官から、今回の確認について統一した様式で報告を集約し、その後再度調整会議を開催し各地点の措置を検討するとの話があった。

伊藤睦人会長より

今回の確認作業は積雪のために一週間遅れての実施となる中、遠くは熊本からご参集頂き無事終りました。その間行政の皆様との復旧にかかる熱意に深く感銘を受けました。また今回行政相互の連携を肌で感じる事が出来、松末住民として復興への大きな希望を覚えます。今後ともよろしくお祈りします。



バックナンバー